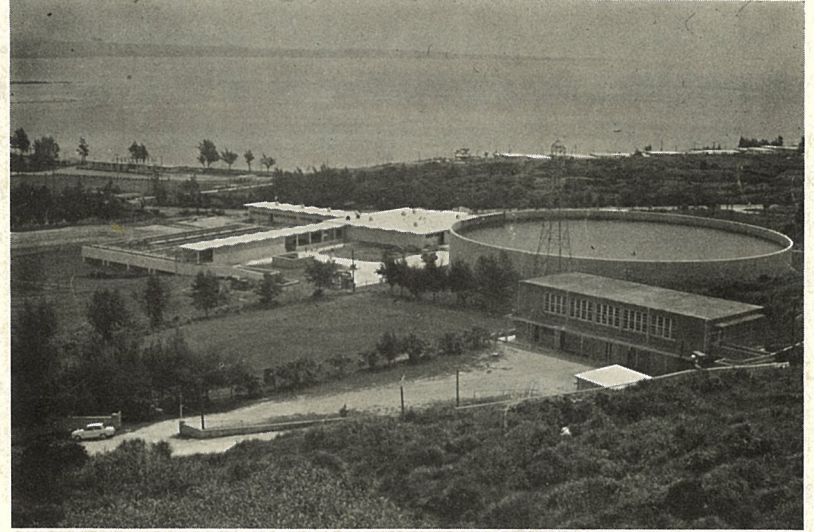


琉球水道公社主要施設



石川浄水場の全景

琉球水道公社

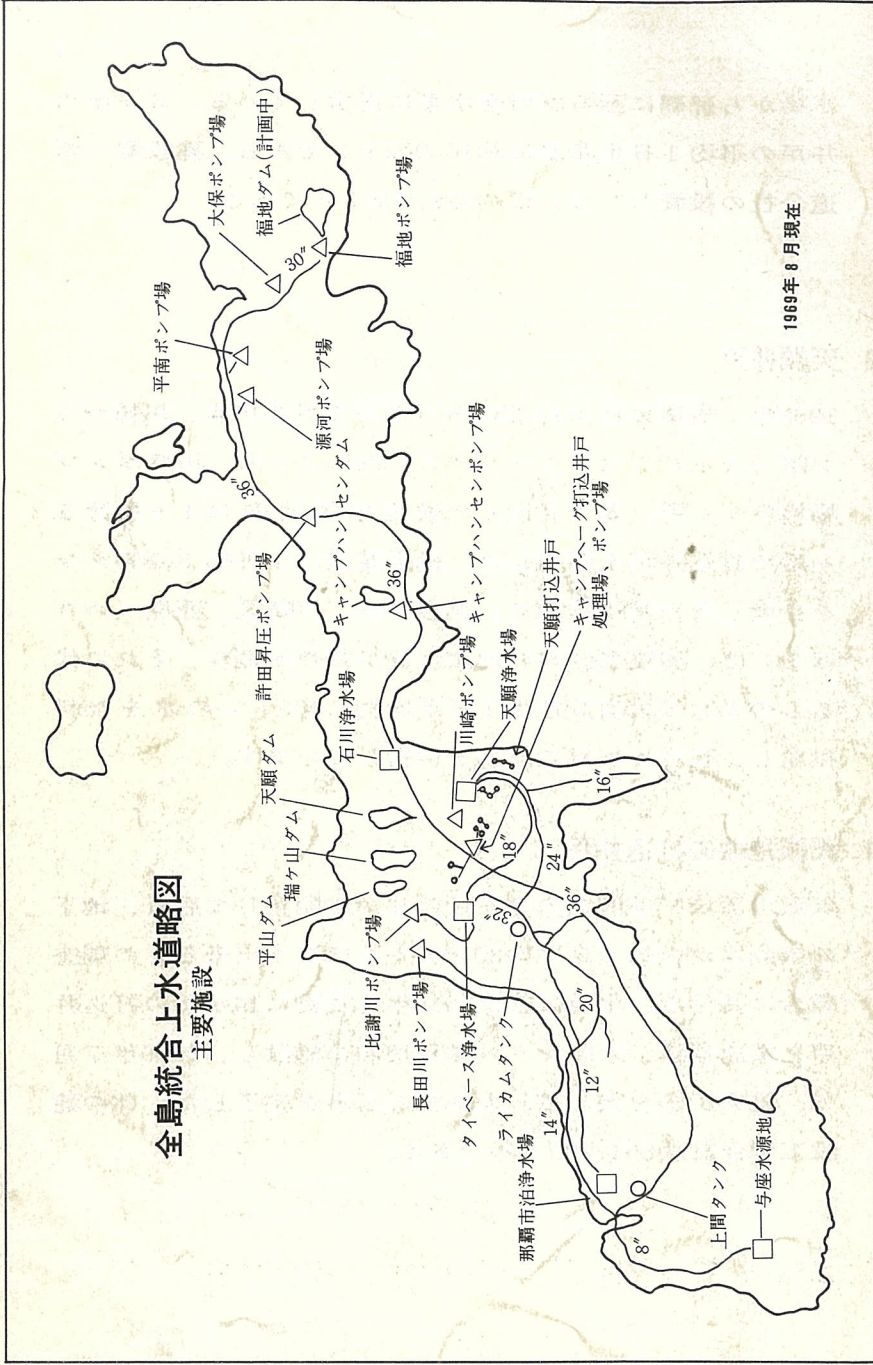
1969年9月

IA®

SK0074

＝企業局＝

全島統合上水道略図 主要施設



水道施設御案内のしおり

琉球水道公社

1969年9月

1. 瑞慶山ダムと貯水池

1961年6月に水道公社が約\$300,000.00の工費で約60,992立方碼(46,600立方米)の土を積みあげた土堰堤である。

貯水量は約6億ガロン。

1966年6月以来1969年8月に至るまで更に約\$260,000を投入してダム及び付属施設を改修して現在に至っている。

此のダムによる貯水量で1963年の75年振りと言われた旱魃、1967年4月、10月1968年7月の異常渇水等数度に亘って水不足の危機を救った実績がある。16号線北側比謝川の上流に位置しており、渇水期に比謝川の水量が減って、需要を下回る時はダムの放水路から放流して比謝川の水量を補う訳である。放流された水は後述の比謝川ポンプ場で取水され、嘉手納空軍基地内にあるタイベース浄水場に送水される。

2. 比謝川ポンプ場

嘉手納村屋良にあり、1949年に米軍が約\$90,000.00を投じて建設したが、其の後1967年に水道公社が約\$380,000.00を投じてポンプ、送水管取替工事を行い、1日送水能力

約800万ガロン(3万トン)を1,500万ガロン(5万7千トン)迄強化拡張した。此のポンプ場は、比謝川の水を嘉手納基地内にあるタイベース浄水場に送水する施設である。比謝川の上流には瑞慶山ダムがあり渇水期にはダムから放流して常時1,000万(3万8千トン)乃至1,500万ガロン(5万7千トン)を送水出来る。

常時 4万~6万ト/日

3. 長田川ポンプ場

比謝川に合流する、支流の長田川は1960年迄唯、海に放流されるだけで、殆んど利用されていなかったが、1960年から1961年にかけて水道公社は約\$457,000.00を投資して、長田川ポンプ場、ダム、牧港までの送水管を建設し、更に1966年に\$247,000.00を出資して中間の位置、ズケランに昇圧ポンプ場を設け、長田川ポンプ場のポンプも大型と取換え、現在の施設が出来上った。此のポンプ場は1日約350万ガロン((1万3千トン)を那覇市の牧港ポンプ場(原水)に送水している。

4. 石川浄水場

石川浄水場は1965年7月に着工、1967年6月に竣工した重力式急速濾過方式による沖縄最大の浄水場である。敷地総面積12,709坪、建物建坪1,780坪、1日2,000万ガロン(7万6千トン)の浄水処理能力を備える様に設計されているが最大3,000万ガロン(11万3千トン)を処理するこ

とが技術的には可能である。総建設費 \$ 3,053,000.00 である。水源は現在のところ東村福地川、大宜味村平南川、大保川、羽地村源河川、久志村大川、宜野座村漢那川、金武村オククビ川の 6 ヲ所である。此等の水源からの水は、ポンプ送水され、浄水場の 1,000 万ガロン (3 万 8 千トン) 原水タンクに入り、36 インチ (92cm) のパイプを通り、流量調整器、薬品混和水路、凝集池、沈澱池、濾過池の順序で通過して濾過池下部の容量 500 万ガロン (1 万 9 千トン) 配水池 (浄水タンク) に入り、配水池の上部濾過池と同階に設置されている送水ポンプによって 13 号線に布設されている 36 インチ (92cm) のパイプを通じ、具志川、美里、コザ、北中城、中城、西原、与那原、南風原を経て那覇市の上間タンクと一部は真玉橋を経て一部は豊見城に、又一部は 40 号線旭橋を経て一号線に出て、更に那覇航空隊に送水されている。送水ポンプは 1 日 750 万ガロン (2 万 8 千トン) 堅型タービン 4 台、1 日 375 万ガロン (1 万 4 千トン) 2 台を備えている。

5. 川崎ポンプ場

具志川市川崎にあり、天願川の水を天願浄水場に送るためのポンプ場である。1953年に、米軍が約 \$ 100,000.00 を投じた施設に、水道公社が 1967年に約 \$ 57,000.00 を出資して改装した。

6. 天願浄水場

天願浄水場は 1961年に米陸軍の予算により、\$ 469,800,00 を投じて建設された。公称能力は 1 日 600 万ガロン (2 万 3 千トン) だが 800 万ガロン (3 万トン) まで浄水可能である。現在、水道公社は約 \$ 220,000.00 の予算でポンプ場の拡張工事を施行中で、この浄水場から配水される地域は、具志川市、美里村、与那城村、コザ市となっている。水原は天願川。現在天願川上流には、水道公社が約 \$ 1,200,000,00 で完成した天願ダムがあり、渇水期にもダムから放流して、常時 1 日 600 万ガロン (2 万 3 千トン) 取水出来る様計画されている。

7. プラザ貯水タンク

コザ市山里の南側の高地で、米軍がライカムプラザと呼んでいたために、現在、プラザ貯水タンクと呼ばれている。此の高地には米軍が約 \$ 112,700.00 を投じて建設した容量 150 万ガロン (約 6 千トン) の貯水タンクがあるが、此のタンクは北中城村、北谷村、宜野湾市、浦添村及びそれらの市町村内の軍施設全てをまかなうためには、小さすぎるため、此の既設タンクの南側に水道公社が約 \$ 315,200.00 を投じて新しいプラザタンクを建設した訳である。容量は 500 万ガロン (1 万 9 千トン)、高さ約 11 メートル、直経約

53メートル、満水位は海拔約125メートルの高さとなる。
1966年11月に着工され、1968年4月に竣工した。

8. 上間貯水タンク

1965年6月に着工され、1966年11月に竣工した。高さ約11メートル、直径約75メートル、容量1,000万ガロン(約3万8千トン)のマンモスタンクである。位置は那覇市沖縄大学東方約400メートルの所において、満水位は海拔約64メートルの高さになる。総建設費は約\$506,623.00。

此のタンクは、石川浄水場から東海岸の13号線道路沿いに敷設された36インチ(92cm)送水管を通じる送水される水を貯え、那覇、豊見城方面での使用のピーク時、又は、石川でのポンプ故障や途中の送水管破裂等の事故の場合にも長時間、配水を維持出来るのが大きい効用である。現在のタンク敷地内に、あと一基、全く同じ大きさのタンクを近い将来、建設する計画がある。それが完成すれば那覇市及びその近郊の水需用に充分対応出来る施設となる。

9. キャンプヘーグ井戸、処理場及びポンプ場

1968年3月に完成した打込井戸6ヶ所の内3ヶ所と、1964年頃陸軍ポストエンジニアが建設したキャンプヘーグ(登川部隊内)の3つの打込井戸を此の13号線登川部隊ゲート近くの処理場で薬品投入して備付けのポンプ(1台能力1日約10,000トン)2台で13号線沿いの石川浄

水場から那覇に至る36吋送水管に送水している。6ヶ所の井戸の平均1日生産量は約10,000トンである。建設費(水道公社の投資した分)は約429,000ドルである。

10. 天願井戸

1968年、水道公社は約334,800ドルで具志川市、川崎マリン隊(キャンプマクトーリヤス)内に3ヶ所、川崎ポンプ場構内1ヶ所、安ゲ名近くの通信隊用地内に1ヶ所計5ヶ所の打込井戸を開発した。総生産量は1日約8,700トンを生産したが其の影響で、具志川市、川崎区、西原(いりばる)区、安慶名区内の地域住民の井戸が涸れ、それに代るものとして水道公社は1日平均約1,400トンの水を無料供給し、現在も無料で原水を供給しています。

11. 天願地域の打込井戸

天願川流域では前項の5ヶ所の井戸を開発して後も、地下の余剰水が尚約1日平均30,000トンは取水出来るとの調査報告に基付き、水道公社は1968年3月更に14ヶ所の打込井戸を軍通信隊、天願マリン隊用地内に施設し、1969年7月で、電力工事を残して、大部分の工事を完了した。此の建設工費合計約894,000ドルである。